

バイオマス取組事例概要

東海

(農林水産大臣賞)

- ・ 応募主体 愛知県田原市、グリーンサイトジャパン株式会社
- ・ 都道府県・市町村 愛知県田原市
- ・ 取組分野 BDF等燃料(炭化)

取組概要

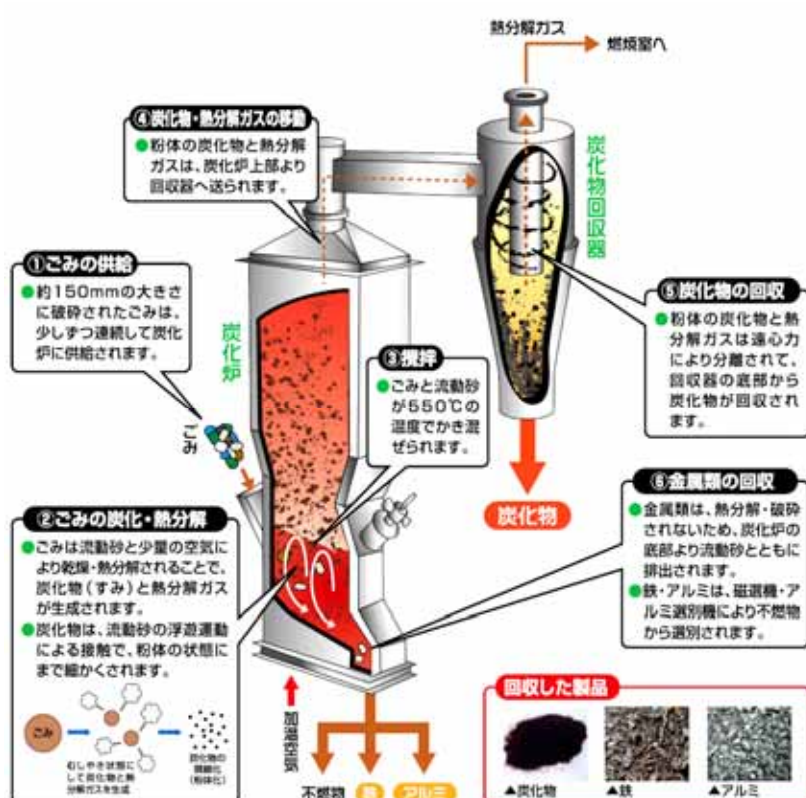
PFI方式により可燃ゴミから燃料代替品や保温材代替品を製造。

グリーンサイトジャパン(株)が施設の運営を行う田原リサイクルセンター炭生館は、100%民間出資の特別目的会社が建設・管理運営するPFI方式によるゴミ処理の施設であり、平成17年4月から運転を開始している。

バイオマス利活用におけるPFI方式の導入において先駆的な取り組みであり、これまで田原市が実施してきたRDF製造方式を従来型の公共事業で実施した場合と比べ、可燃ゴミ処理場建設費・管理運営費等のコストを約30%節約している。また、計画段階から生成物の利用者をPFI事業者に取り込み、利活用先を確保している。

田原市から排出される可燃ゴミ約16,000t/年の全量を受け入れ、流動床式炭化炉にて炭化処理(約1,200t/年予定)し、コークスや保温材の代替品として県内の製鋼所に販売している。炭化方式の採用により、従来の焼却方式と比べ、可燃ゴミ処理施設や炭化物を利活用する製鋼所における電力消費量、補助燃料の使用量を節約し、可燃ゴミの処理に伴って生じる地球温暖化ガスを50%以上低減している。

本施設は斬新な建築デザインの採用、ビオトープの設置、一般見学者が自由に見学できるスペースの設置、ホームページによる排気ガスの排出状況等の情報公開、排気ガスの排出基準を法規制より厳しく設定している等、最先端の資源化施設である。



流動床式炭化システム



田原リサイクルセンター炭生館



ビオトープ